

水城高等学校（茨城県水戸市）

山野隆夫校長先生を初め、高梨拓副校長、中山務教頭、高木幹夫教頭が対応してくれた。主に高梨副校長が話をし、中山、高木両教頭が補足的に説明してくれた。日本私学教育研究所の山路、山崎、調査委員の原が、基本的には自由に語っていただきたい、こちらからは随時質問をする形で、進められた。

1. 震災当日について

(1) 地震直後の避難誘導

地震はちょうど6時限目の最中だった。副校長と高木教頭は職員室にいた。

地震の時は動きようがなかった。理科の教員なので、初期微動が来て、主要動が来て、その時は本箱から本が飛び出すのを押さえている教員がいた。それで収まると思ったら3発目が来た。机の上の本もばさばさ落ちた。このままでは天井が落ちるとか、想像したが動きがとれなかった。、2人で手分けして各階ごとにグラウンドに出るよう指示した。

中山教頭のいた校舎（本館）が一番古い建物で、本箱がすぐ倒れた。これはやばいと思い、もう最初の揺れで先生方に、生徒に直ちに外に出るよう指示した。さいわい3年生はおらず、4クラスしかいなかったの、スムーズに避難できた。

グラウンドでクラス毎に整列させ、担任が点呼を取って確認した。6階建ての1号館ももしかしたら倒壊するかもしれないという恐れがあったので、体育科の教員がメガホンを持って、できるだけ建物から離れるよう指示した。体育館で授業をしていた生徒はジャージ姿のまま、ここに集合した。毎年防災訓練をしていたので、生徒は慌てず、冷静に行動し、けがが一人一人もいなかった。避難誘導はスムーズに行った。生徒掌握という点では、在校生は6限の授業中だったので確実にできたが、卒業生は受験の最中で、たとえば仙台に行った生徒などの消息はつかめなかった。

責任者の校長は東海村の中学校で講演をしていて、不在だった。学校に帰ってきたのは途中激しい渋滞に巻き込まれ、7時過ぎだった。携帯も通じず、全然連絡が取れなかったが、副校長1人、教頭2人の管理職がおり、校長としては絶対の信頼を置いていたので、安心していられた。毎朝朝会をし、管理職会議を開いていたなど、生徒と学校、教員と管理職の間に日頃から信頼関係があったことが非常時に際し、生きたのだと思う。

(2) 帰宅の確認作業と帰宅困難な生徒への対応

グラウンドに生徒を集合させた状態で、1, 2時間待たせた。3年生は卒業していたので、1年生と2年生1100人を超える生徒のうち、500人を超える生徒が残っていた。当初600人近くいたが、途中で502人になった。

その間にラジオで水戸駅の状況も分かった。それで、自転車や徒歩で帰れる生徒と、交

通機関が止まって帰ることができない生徒に分けた。

管理職 3 人の判断として、帰れる者は帰した。その日は寒く、西風も強かったので、一度教室に戻したが、その直後に余震があった。危ないということで再びグラウンドに避難させた。その後しばらく落ち着いたので、教室に戻したが、いつまた余震があるか分からないので、比較的新しいこの校舎に 4,5 クラスの生徒を一教室にいれ、すぐ避難できるようにした。教室も寒かったので、教室のカーテンを体に巻き付けさせたり、サッカー部や陸上部などの部室にあるポアコートを持ってこさせ、寒さをしのいだ。

震災の夜は真っ暗だった・生徒の不安を取り除くために、マイクロバスをグラウンドに入れて、一晩中ライトをつけていた。ディーゼルエンジンだったのでそんなに燃料を食わないだろうとの判断からである。

ここ 1 号館を本部にして、迎えに来た保護者に対応した。生徒の持つ携帯がたまに通じることがあった時など、問い合わせのあった分には伝えることができたが、学校からは全く発信しようがなかった。この辺一帯が停電のさなか、親たちは 3 時間、4 時間かけて迎えに来てくれた。何年何組の生徒かを学年の教員で確認し、それを教頭が集計した。歩いて帰る子についても勝手に帰すことなく、一人ひとり確認した。何人帰し、何人残っているかを時間ごとに担任から報告してもらい、集約した。地震直後、7 時、9 時 20 分、12 時半、翌朝 6 時など、全部で 5 回行った。

当初 500 人いた生徒も時間が経つにつれて 200 人ほどに減っていった。正門から迎えに来る保護者が見えるこの玄関で一本化した。最終的に電車が止まって帰れない子たちが残った。教員たちからどこが本部でどこから指示を出すのかと要望があり、それに応えた。古い校舎は危険で生徒を置いておくわけにはいかない。保護者が入って来るのが見えるここしかなかった。

危機管理のマニュアルの想定に載っていない状況の中で、管理職の 3 人がこの本部に詰めて、指示を出した。5 時半の生徒を校舎に収容する時点で、校内の他の建物を調べさせたが、新しく揺れも少ないということで、この 1 号館の建物に生徒を収容し、本部も置くことにした。外に出ていたときに目撃したが、3 回目の揺れで周りの建物が揺れている中で、この建物はタイルなど落ちたが、比較的揺れが少なかった。それでこの建物で一元管理することを決めた。上から順番に一教室に 3 クラスほど入れた。

そのうち親が迎えに来る、生徒を帰すという流れができ、生徒の数も減っていった。教員も疲れてしまうので、賢明な判断だったと思う。

我々も管理職も 2 つに分けた。副校長と教頭の 2 人が泊まり、事務局長と高木さんは帰って翌日に備えた。朝 7 時にやってきて、8 時に宿泊した 2 人は帰った。そこで初めて自宅がどうなっているか分かった。

残った 2 人は一晩中起きていた。たき火をしようと木を集めてきて、一晩中火をたいていた。この近辺は真っ暗で、星がほんとにきれいだった。

学校見学会用の学校のインシヤル入りの飲み水がさいわい 500 本以上あった。それを生徒に配った。これまで学校としては災害用の備蓄はしていなかった。これを機に、入学時に生徒分の食糧など一式を購入してもらい学校が預かる形で、何もなかったら卒業時に返すという方式を検討しているところだ。東京や神奈川では東海地震などの備えとして備蓄をしていたようだが、茨城ではそういう話はなく、備蓄はしていなかった。公立もそうだ

ろうと思う

(3) 情報の収集と学校からの発信

ライフラインがだめになり、外部の情報がなかなか採れなかった。副校長が自分の自動車のラジオから情報を得て、それをその都度、生徒たちにも今現在どのような状況になっているか、伝えた。外部とつながる緊急電話はなかった。車に備え付けてあるテレビで情報を得た。

6 mの津波のところまでは知ったが、その後 10 mになったとは知らなかった。6 mの津波と聞いたときは、ここは海から 12 kmあり、川でつながっているが、ここは高台で 20 数mあり、大丈夫だろうと判断した。あとで 10 mと聞いた。外部からの情報は、情報というより、状況の説明でしかなかった。

コンピュータ用の無停電のシステムがあってサーバー用の電源があったので、1 時間ほど使えた。ラジカセをシステム用電源につないで駅の状態などの情報を調べるなど、しばらくラジオなどの情報を手に入れることができた。予備電源は結構持った。この地域は電源の復旧が他に比べて遅く、13 日の朝だった。それまで本校のサーバーもダウンしてしまい、情報の発信ができなかった。

情報発信は電気が復旧してからだった。それまでは個々の生徒の携帯にかかってくるのに応答するのみだった。公衆電話は校内にはなく、近所のコンビニにあり、そこは長い行列となっていた。私自身も夜中の 2 時過ぎにようやく家族と連絡がとれた。

震災当日、家庭科の先生と養護教諭がトイレの始末をしてくれ、感謝している。水が流れないので、臭い中、大便を黒いビニール袋に入れ、大きなバケツに運んでくれた。

水の復旧は電気と同じ頃だったが、地域によってばらつきがあり、ここは比較的遅かった。予め通知があるわけでもなく、いきなり復旧した。その意味ではあらゆることで情報がほとんどなかった。

(4) 翌朝の生徒の帰宅

翌朝 9 時 40 分の時点で生徒は 80 人くらいになっていた。次の日も泊まった生徒はいない。学校にあったマイクロバス 4 台中の 2 台とキャラバン 1 台で、北と南と西と 3 方向に分けて、生徒全員を保護者宅に送り届けた。

9 時 40 分、28 人乗りのマイクロバス 2 台を北の日立方面、南の石岡方面（それぞれ 20 人程度）に、西の笠間方面は人数が少なかったので（10 人程度）キャラバンで、送った。南と西は比較的早く戻ってきたが、北に行った車は 6 時過ぎに戻ってきた。半端でない渋滞に巻き込まれたということであったが、それはガソリンスタンドに入る車によるものであった。そのほか、霞ヶ浦方面と牛久方面に生徒が一人ずついた。

(5) 教員の体制

前の晩の午後 10 時半に 80 人ほど残っていた教員を全員残す必要がないという判断をした。自宅が心配という教員もいた。それで、明日朝 8 時に来るグループと 12 時に来るグループと泊まる教員たちの 3 つに分けた。そのグループ分けはコースごとと学年ごとに任せ

た。その中に牛久まで帰る教員もいたので、学校の車を公用車として貸すことにし、一番遠く、保護者と連絡がつかない牛久の生徒を乗せて帰すことにした。最終的に連絡は取れたが、親は迎えに来れないということであった。信号がだめで、大渋滞で大変だったようである。メインストリートは脇から入ってくる車でほとんど動けないという状況であった。

(6) 避難民への対応

水戸駅の上に三の丸小学校など避難所があったのだが、収容しきれなくて、受け入れて欲しいという問い合わせがあった。しかし私たちの学校も中高でいろいろな地域から通学していて、帰れない生徒が 500 名ほどいて、そちらで手がいっぱいなので、場所は提供するから誰か要員をつけてくれと言った。警察官が 30 人くらい連れてきたが、要員をつける話は聞いていないという。

ここは水戸駅に近く、避難所としては、断りにくいこともある。

建物の被害がひどく、武道場という畳の部屋もあるがそこも天井が落ちた。避難民を受け入れられるところは冷たい床の体育館しかなかった。多いときには 300 人くらいいた。

市役所に教員 2 人を派遣して、生徒 500 人ほど残っているので何とかしてくれと要望した。窓口はあって、10 時半頃、市役所からクラッカーと毛布を持ってきてくれた。ただ毛布は数十枚しかなく、それは寒い体育館にいる避難民にあげた。警察が誘導して避難民がやってきたのだが、市役所は把握していないようだった。運んできた市役所職員に「上の体育館にも避難民がいる」ということを知らせたら、後から避難民用の食糧を持ってきたようだった。

学校としては、避難民には水を差し入れしたりした。備蓄ではなく、選抜出場の寄付のポカリスエットなどを避難民に配った。

水が来ないのでトイレがひどくなる。飲み水も必要となる。たまたま選抜に出ることになっていたので、差し入れとか寄付でポカリとか、水は大量にあった。それを供給してあげたので、それについては喜ばれた。

近隣から避難住民が押し寄せることはあまり想定していなかった。近所の一人暮らしのおじいさんとか、東北（青森）から茨城に受験しに来ていて帰れなくなった子などがいた。市が水と食糧を運んできた。学校としては特設窓口などは置かず、場所は提供するが、あとは市の方で対応してもらった。

学校行事（入学式）もあるのでと事情を話した結果、4 月の上旬になって本来の避難所である三の丸小学校や公民館などに移ってくれた。直接は言いずらく、市を通じて言ってもらった。その結果入学式の直前に退去してもらった。その頃には 2、3 名になっていた。昼間はどこかに出かけて、夕方に帰ってくるなど、正確な人数の把握は難しかった。一番最後までいたのは、自分の家は壊れていないけど、一人でいると怖いという近所のおばあさんだった。震災直後、生徒たちがグラウンドに集合して教員がてんてこ舞いしているときに、すでに近所の方が何人か校長室にいた。事務所の職員が応対して入れたのであろうが…。

2. その後の対応

(1) 学校再開にむけて

13日の日曜 11時に校長を含む管理職が集まって、今後どうするかが話し合われた。とりあえず 17日までの休校をホームページの掲示板に載せた。サーバーは学校内にあったが、システム担当の教員は牛久にいたので、リモートアクセスしてもらった。その教員は 50 c c のバイクで後ろにガソリンを積んで、来てくれた。電気さえ通じればインターネットや情報関係の復旧は割と早かった。ピンクの電話はあったが、本館にあり、危険で立ち入れなかったので使えなかった。

3月2～4日で、試験は終わっていた。あとは成績処理だけだった。

17日に管理職でもう一度集まり、終業式もやらず今年度いっぱいの休校を決めた。列車が動かなかったので、どうしようもなかった。市町村も県もまったくだめだった、いつから再開するのかなどの調査はよく来たが、返してくれなかった。いつ交通が動くかなどの情報提供は全くなかった。学校としてはいつ列車が動くのか、どこのバスが運行を再開するのかは、学校再開の判断をする上で重要だった。そんな中、JTBの水戸支店の教育事業部から瓦版が出て、学校が切実に必要な交通の情報を得ることができた。

一番遅れていた水郡線が4月7日に復旧したので学校再開を決めることができた。しかし水郡線は隣の常陸青柳駅までは来ているが、那珂川のところで橋が壊れている。バスの運行を市役所に申し入れた。それまで市役所はその問題を認識していなかった。学校としては困るのだという話をしたら、ずっと上の方までつながってそういう問題を認識していなかった、検討しますということだった。その後JRから4月6日に「水郡線で通学される皆さんへ」という通知が来て、代替バスの手配がなされた。

17日の会議で、4月7日に入学式はやることにした。新一年生へは「緊急連絡について」という文書を郵送し、新入生の招集日の変更や入学式は予定通り実施することなどを連絡した。ホームページの案内も同封した。携帯のQRコードを入れ、そこからアクセスできるようにした。そういう意味では主な情報発信はホームページであった。市や県はデータの収集には来るけれど、そこから戻ってくるものはなかったといえる。入学式は体育館で行事予定通りできた。

在校生は従来からIDを配ってあり、ホームページを見ることができている。

その前の3月28、29日に教科書販売が予定通り学校でやることをホームページに載せた。来られない生徒もいたが、来ることができた生徒は担任に自分の家の状況を報告し、旧クラスの教室から私物を持って帰るよう指示した。教科書を販売する書店に確認したが、当日来られなかった生徒はほんの数名であった。元々の予定であったが、当時交通事情は悪く、親も一生懸命送ってくれたと思う。

(2) 教室の手配

入学式の後2日休んで調整し、授業を始めた。校舎が壊れて足りず、プレハブもすぐには建たない。そこで従来なら40人学級だが、45,6人のクラスができるが勘弁してという話を校長から保護者にした。1クラス少なくすれば収容できるということで1年間限りの時限措置として何とかスタートできた。教職員も大変だった。44名の職員室に移動して

もらって現在 51 名となっている。机を縦並びだったのを横並びにするなどプロイラー状態だが、入ってもらった。引っ越しには 1 日半かかった。この夏にやっとプレハブが建った。すぐ工事発注など手配したが、できあがるまでに 8 月になってしまった。こちらの事情でどこに建てるか、場所の選定にも苦労した。あまり目立つところでは評判が悪くなるし、見た目もよくないとずいぶん悩んだ。

3 月 14 日に業者に本館を見てもらった。きれいに耐震補強の X 軸が並んでいたが、業者に教科書では見たことがあります、本物は初めて見ましたと言われた。その古い校舎は今完全に更地になっている。そこは本来 10 クラスがあった。他に大きな職員室と理事長室があるなど管理棟となっていた。それを壊して、1 クラス減で何とかなった。理科の実験室など特別教室を普通教室に復元して何とかやりくりした。しばらく理科の実験等はできない状態が続く。

激甚災害に指定されたので、壊れた建物の費用は最大国から半分出ることになっている。茨城の場合、県のプラスの補助はない。当初なくなった建物をそのまま「復旧」ということであったが、それはないだろうということで、現在は壊れた建物の面積分の半分の費用までは出すということになった。理事長からは、復旧でなく復興、10 年 20 年先に恥ずかしくない建物を造ろうと言われた。県からの補助金はなく、大きな借金を抱えることになるが…。

(3) 選抜野球出場

その間に野球の話があった。3 月 16 日に茨城空港から出発することになっていたが、茨城空港は天井が落ちた。神戸から来る便の折り返しのはずが、機長は外国人で茨城に来ることを拒否した。出発式も済ませていたが、飛ばないということで帰りかけたところ、羽田から日本人の機長が来て送ってくれることになり、やっと出発できた。そもそも 16 日の前に、参加すべきか、だいぶ議論になった。15 日に抽選会があった。14 日に部長がつくばまで車で行き、エクスプレスで上野に出て、抽選会に出席した。

そんな中 14 日で福島で水蒸気爆発があり、問い合わせもあったりして、監督はグラウンドでの練習は取りやめた。茨城では練習できないということになり、開会式は 23 日だが 1 日でも早く行って練習しようということで、16 日出発となった。向こうでは温かく迎えてもらった。バスも 1 台限りで 4, 50 人で、応援もおおげさにやるのは控えようということになった。高野連からは兵庫の学校 4 校から各 30 名計 120 名の応援を出してくれるという申し出があった。最初は辞退したが、結局その人たちの帽子とメガホンを持って出かけることとなった。たぶん阪神淡路大震災の時のお返しという思いがあったのではないかと思う。観客全員から温かく迎えてもらった。

他の部活も 3 学期いっぱいやらせなかった

最近測定した結果では、他の学校と比べても大丈夫となっている。

3. まとめ

生徒は無事で、家族でも大きな被害に会われたというようなことは聞いていない。瓦が落ちたなど大なり小なりの被害はあったろうが…。

メンタルな問題については本校にカウンセラーがおり、そちらから教員と保護者に文書を出してもらった。生徒を見て注意して欲しい点などを書いてもらった。カウンセラーからは震災のことで相談に来る生徒もほとんどなかったと聞いている。

今回生徒も安全に避難することができたとし、帰すこともできた。

今後の課題としては、水や食糧、銀紙などの備蓄であろう。学生寮にはガスもあるので、そこに米など備蓄するなどすれば生徒たちに温かいおにぎりを食べさせることができるかなと思っている。

当面建物の再建に目がいていて、今後の課題については気がつかないこともあるかもしれない。これからまとめ、考えていきたい。

<資料>

- ①経緯
- ②17日打ち合わせの内容
- ③新入生招集日の案内とQRコード
- ④カウンセラーの話
- ⑤JTB瓦版
- ⑥学校の配置図



平成 23 年 3 月 19 日

保護者のみなさまへ

水城高等学校カウンセラー 土田 弥生

強い衝撃を受けた場合の心身の反応

この度は東日本大震災という未曾有の震災に遭遇し、皆様のご心痛はいかばかりかとお察し申し上げます。突然このようなことを体験した場合、こころやからだに起こりやすいことについて、簡単ですがまとめてみました。お子様とご自身の心身の状態を理解するための参考にしてください。

I. しばしば起こる反応

<こころの反応>

- ・出来事にまつわるいろいろな場面や感情が浮かんできてしまい、怖くなったり不安になったりします。
- ・これから先、また同じようなことが起こるのではないかと心配になることがあります。
- ・自分たちになぜこんなことが起こらなければならないのかという強い怒りを感じることがあります。
- ・何もできない、無力な自分が悲しく、強い無力感に襲われます。
- ・震災のために大切な人や当たり前だった生活を失ってしまった悲しみに打ちひしがれてしまいます。
- ・強い感情に突き動かされ、人前で冷静に振舞えなくなるのではないかとこの恐れを抱くことがあります。
- ・前には喜びや楽しさを感じたものに対して、何も感じなくなり、こころが動かなくなってしまった感じがします。
- ・もう将来に希望や夢を持たないような気持ちが起きてきます。

<からだの反応>

- ・疲労感やからだが重くだるい感じ、力の入らない感じがします。
- ・からだのこり、めまい、発汗、震えなども起こりやすくなります。
- ・眠りにつくのにかかたり、眠りが浅く、途中で目が覚めてしまったりして、ぐっすり眠った感じがしません。悪夢も見やすくなります。
- ・食欲がなくなり、食べても美味しくなく、胃もたれ、腹痛、吐き気、下痢や便秘などの症状や、頭や喉がしめつけられる感じなどが見られます。

<その他の反応>

- ・孤立してしまった感じや、周りの人に理解されていない思いがわいてきます。周りの人と気持ちが通じない感じや理解できない思いがわき、人間関係がうまくいかなくなることがあります。

・緊張を和らげようと、いつもより多弁になったり、成人の場合はお酒を飲む機会や量も増えたりします。

*これらのことがらは、人が衝撃的な出来事を経た後に起こる自然な反応です。「異常な事態における正常な反応」です。

*これらのことがらは、すべてが起こるわけではなく、その現れ方、強弱も人によって異なります。

*多くの場合は、時間とともに自然に落ち着いてきますが、症状の消退の経過は人によって異なります。

*直後はあまり問題がないように見える人でも、しばらくしてから症状が現れることがあります。頑張っ
て一段落ついて気が緩んだ時などに上記症状が出たりします。

*このような反応が続く、あまりにつらい場合には、医療機関の受診も検討してください。

II. 生活上で気をつけていただきたいこと

車の運転には「要注意」

大きな出来事の後では、ぼんやりしたり考えこんでしまったりして、注意散漫になりがちです。
くれぐれも運転には注意してください。

睡眠と休息をできるだけ十分にとりましょう

睡眠は心身の疲れをとるための最高の良薬です。

やらなければならないことは山ほどあり、やりきれないのが当然です。まずは寝ることです。

できるだけいつもの生活をしましょう

できるだけこれまで通りの生活を続けてください。いつものリズムを取り戻すことが大切です。
ただし、決して無理をせずに、手助けが必要な時には、周囲に協力を求めることも必要です。

気持ちを無理に抑え込まないようにしましょう

安心して話せる相手は絶対必要です。家族、同僚、友人など、本音が話せる相手とゆっくり話す時間を取りましょう。

一人ぼんやりする時間を取りましょう

こころを休ませたり、いろいろな気持ちを整理するためにも、一人になってぼんやり時を過ごすことも大切です。

その他、なにか気がかりなこと、迷うことなどがおありでしたら、どうぞ遠慮なくお声をかけてください。

平成 23 年 3 月 17 日

新入生及び保護者 各位

水城高等学校長 山野 隆夫

新入生召集日等の日程変更について

拝啓

春暖の候、皆様にはますますご清祥のことと拝察いたします。

さて、このたびの東日本大震災では多くの方々が想像を絶するご苦勞をなされていることと思います。本校でも地震に伴う施設等の被害がありましたが、可能な限り通常の運営ができるように努めているところです。

とりあえず、入学手続きの際にお伝えしたことを変更しますので、状況をご理解の上ご承知くださいますようお願いいたします。

敬具

記

1. 新入生召集日：3月22日(火)に予定していた内容のすべてを取り止めます。
 - 1) クラス編成のための学力診断テストは、入学後に実施します。
 - 2) 教科書販売は新年度が始まってからご案内します。
 - 3) 定期券の購入については、入学後改めてご案内します。
 - 4) 提出いただく書類等については、入学後に配布・回収いたします。
 - 5) ジャージの採寸については、入学後に行います。
2. 入学式
 - 1) 平成23年4月7日(木)に実施する予定ですので、配布した文書でご確認ください。
 - 2) なお、常磐線等の交通機関が回復しない場合は、改めてご連絡いたします。
3. 入学式後の日程
 - 1) 入学式が予定通り実施できた場合は、年間行事予定にしたがって運営いたします。
 - 2) 予定通り実施できない場合は、改めてご連絡いたします。
4. 緊急連絡板にて本校の状況を掲示してまいりますので、別紙をお読みいただき連絡版にアクセスしていただければ幸いです。

保護者各位

緊急連絡について

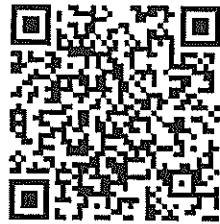
水城高等学校では、悪天候等による出校の変更などの緊急連絡は以下で確認できます。

～パソコンの場合～

本校ホームページ(<http://suijo.ac.jp/>)にて確認できます

～携帯の場合～

以下の QR コードを読取るか、以下のアドレスを入力して確認できます



<http://suijo.ac.jp/i/>

当日の学校行事等の実施の有無は当日 AM6:00 ころまでにこれら URL にて発表します。

平成 23 年 3 月 17 日

年度末・年度始の業務について

※ すべての業務は JR が運行するかどうかにかかっている。

1. 年度末の生徒に関する業務

- 1) 修了式に関して
 - ① 3/18 と 19 に可能な限り登校させて個人の物を持ち返らせる
 - ② 何の根拠もないが 3/31 に式を行う
 - ③ 現在の教室の持ち物を整理しないと新年度に移行できないし、新入生召集日の準備もできない。
- 2) 新入生召集日に関して
 - ① 出席できない生徒も多いと思われるが、可能な限り出席させて、仮に 6 割であっても実施して学級編成等の準備に入りたい。
 - ② 教科書販売とジャージ等の調査をしたい。
 - ③ その他
- 3) 部活動は原則停止する。

2. 教職員に関する業務

- 1) 成績郵送
 - ① 同封する文書にこれからの対応に関するものを入れたい
 - ② 生徒の心的ケアをする文書を入れたい（土田に依頼した）
 - ③ 学業特待生の文書を別に？送付する
- 2) 時限配当等
 - ① 新部会
 - ② 新学年会
 - ③ 教科会と時限配当
- 3) 辞令交付等
 - ① 新採教員への連絡
 - ② 非常勤等への連絡
 - ③ 歓送迎会の実施の可否
- 4) 新年度
 - ① 始業式
 - ② 入学式
 - ③ 4 月の授業の形態
- 5) 教室等
 - ① 学級編成 ※ 原則として同時授業のない学級編成とする
 - ② 1 年生の学級は 13 クラスとするが、コース移動をどうするか？新入生召集日の試験を使うことはクレームの原因とならないか？
- 6) プレハブ
 - ① 建設場所について
 - ② 時期の予定
 - ③ 同時に本館の診断を行い修理の可否を確認する
 - ④ 修理不可となったときの今後の中期的展望について
- 7) その他

3. 野球関係 ※3/18に最終的に決定されるが！

- 1) 現地に関して
 - ① 野球部は練習や練習試合に専念できるようにする
 - ② 本部に多賀野さんが行っている（3/19までの予定、次は天下井さん）
 - ③

- 2) 応援に関して
 - ① 学校の次年度への対応が最優先だろう、教員を割く必要はない。
 - ② 被災地へのガソリン等の手配が優先されるべきで、不要不急なものは控えてよいのではないか。
 - ③ 父母会は開会式など、独自にまとめて進めるとのこと
 - ④ どうしてもという場合は、参加可能な生徒会・応援委員・吹奏楽部員に絞る。

- 3) 広告等
 - ① 毎日と茨城で特集を組むことになっているが、できれば自粛してもらうことはどうか？
 - ② したがって、本校の広告もなくなるが、どうしても組む場合は表現や理事長と校長・PTA会長のあいさつは変えざるを得ない。

- 4) 会計及び予算
 - ① 寄付等はこれ以上は望めないだろう
 - ② 必要な予算を組むか？

4. その他



かわら版No.4 ～震災復興に向けて応援します！

No.3から変更・追加情報です[No.2・3はそのまま保存下さい]

鉄道

- ・常磐線 土浦～勝田間 : 4月上旬の復旧を目指し24時間体制で修復中
- ・水戸線・水郡線 : 調査は終了 復旧の見込みは不明
- ・鹿島臨海鉄道 : 水戸～新鉾田間 大洋～鹿島スタジアム間 4月上旬の復旧見込み
新鉾田～大洋間 線路の崩落があり復旧の見込みは不明

※ちなみに上野～土浦間は現在90分程かかります(通常は70分) しかも通常の40%程度で運行
特急電車は当面運休

高速バス

- ・水戸～東京間 : 赤塚・茨大ルートが運行再開!これで完全通常通りの運行です。

路線バス

- ・水戸駅北口③乗り場～大甕駅間:臨時バス運行(朝夕は30分に1本)
⇒上記バスは、勝田・佐和・東海駅に立ち寄ります
- ・水戸駅南口④乗り場～日立駅③乗り場間:臨時バス運行(朝夕は30分に1本)
- ・勝田駅西口～日立駅③乗り場間:臨時バス運行(朝夕は30分に1本)

支援バス

- ・大子町支援バスの運行[1,000円] 予約不要
大子町 06:10 発～水戸駅 08:00 着 水戸駅 16:20 発～大子町 18:00 着
始業式にあわせて増発予定 ⇒ 詳細は茨城交通のホームページを
- ・JRの復旧していない地域に路線バスの増強を検討中!
新学期にあわせて次の路線を検討しています。
水戸駅～日立駅・おおみか駅、勝田駅～日立駅 …… 上記参照
JR水戸線(笠間市内)
JR水郡線(常陸太田線含む)
- ・磯原駅～十王駅間 : 朝夕に運行
- ・十王駅～国道6号～日立駅間 : 土日のみ2本運行

詳細は日立電鉄ホームページで

ガソリン情報

- ・ガソリン情報は下記リンクをご参照下さい。結構役立つかもしれません。
検索エンジン ⇒ “災害時ガソリンスタンド情報”で検索 ⇒ 茨城を選択

詳細は検索エンジンで

NHK水戸放送局 ⇒ 地震災害情報に
詳しく掲載されています。

(株)JT B関東 法人営業水戸支店 教育事業チーム

TEL:029-225-5221



かわら版No.5 ～震災復興に向けて応援します！

No.4から変更・追加情報です[No.2～4はそのまま保存下さい]

ついに土浦～勝田間が31日から運行再開になりました！

鉄道 …… 速度を落としての運転です

- ・常磐線 土浦～勝田間 : 3月31日(木)から約50%程度で運行再開！
勝田～高萩間 : 4月9日(土)頃から運行再開予定
高萩～いわき間 : 4月下旬頃運行再開予定
- ・水戸線 友部～小山間 : 4月7日(木)頃運行再開予定
- ・水郡線 : 常陸青柳から北 : 4月中旬運行再開予定
上菅谷～常陸太田間 : 4月中旬運行再開予定
水戸～常陸青柳間 : 4月下旬運行再開予定 ⇒ 代行バス運行予定
- ・鹿島臨海鉄道 : 水戸～新銚田間 大洋～鹿島スタジアム間 4月上旬の復旧見込み
新銚田～大洋間 線路の崩落があり復旧の見込みは不明

※ちなみに上野～土浦間は現在 90 分程かかります(通常は 70 分)

上野～勝田間は2時間30分程度かかる予定です。

特急電車は当面運休です。

運行ダイヤがわかりましたら改めてお知らせいたします。

道路

- ・水戸市千波町の梅戸橋(常磐線跨線橋) : 4月末頃
- ・国道245号線湊大橋 : 4月末頃
- ・国道118号線静跨線橋 : 7月以降
- ・国道349号線幸久橋 : 余震の鎮静化後に点検開始

ガソリン情報

・ガソリン情報は下記リンクをご参照下さい。結構役立つかもしれません。

検索エンジン ⇒ “災害時ガソリンスタンド情報”で検索 ⇒ 茨城を選択

詳細は検索エンジンで

NHK水戸放送局 ⇒ 地震災害情報に
詳しく掲載されています。

㈱JTB関東 法人営業水戸支店 教育事業チーム

TEL:029-225-5221



かわら版No.6 ～震災復興に向けて応援します！

No.5から変更・追加情報です〔No.2～5はそのまま保存下さい〕

☆鹿島臨海鉄道の運行について☆

鉄道

・鹿島臨海鉄道【水戸——大洗——新幹田——大洋——鹿島サッカースタジアム——鹿島神宮】

水戸～大洗 4月2日運転再開。通常の50%程度の運行。

大洗～新幹田 4月8日運転再開。通常の30%程度の運行。

新幹田～大洋 列車の運行にあわせてバス代行運転。(再開まで3ヶ月程度かかる見込)

大洋～鹿島サッカースタジアム 4月7日運転再開。通常の30%程度の運行。

鹿島サッカースタジアム～鹿島神宮 バス代行をJR東日本に要請中。

運転再開まで鹿島サッカースタジアム駅に臨時停車します。

※詳しい運転時刻については、運転再開の前日に決まります。

・常磐線 土浦～勝田間：3月31日より再開！通常の50%程度の本数。速度をおとしての運行

勝田～高萩間：4月9日頃再開 ※高萩～いわき間は、4月下旬頃再開予定。

特急電車は当面運休

・水戸線 友部～小山間：4月上旬再開予定(4月6日～7日に間に合わせる方向)

・水郡線 常陸青柳～安積永盛(福島)、上菅谷～常陸太田：4月中旬再開予定

※水戸～常陸青柳間は、4月下旬再開見込(代行バス運行予定)

・ひたちなか海浜鉄道：全線運休。代行バス(阿字ヶ浦～勝田)を1時間間隔で運行中。

(阿字ヶ浦発 6:05～21:05 / 勝田発 6:00～22:00)

運行再開は7月を予定。

※ちなみに上野～土浦間は現在90分程かかります(通常は70分)

上野～勝田間は2時間30分程度かかる予定です。

臨時バス運行終了について 常磐線の運行再開に伴い下記臨時バスが運行終了となります。

・3/30で運行終了 土浦駅東口～高速石岡バス停～水戸駅南口

・3/31で運行終了 つくばセンター～水戸駅南口、石岡～土浦駅

詳細は検索エンジンで

NHK水戸放送局 ⇒ 地震災害情報に
詳しく掲載されています。

(株)JTB関東 法人営業水戸支店 教育事業チーム

Tel. 029-225-5221

水戸女子高等学校（茨城県水戸市）

仮校舎内で、鈴木校長先生が主に時系列で話して下さり、田口事務長が補足的に説明してくれた。調査委員は、山路、山崎、原の3名である。

1. 震災当日の動き

(1) 学校での動き

14時45分から6時間目の授業が始まったところだった。直後に地震が起きた。2年生は修学旅行4日目で、学校にはおらず、3年生はすでに卒業式を済ませていなかった。学校の中には1年生141名のみだった。

46分地震が発生し、授業担当者はまず机の下に隠れるよう指示し、1分程度たち、揺れが少し収まったところで、企画管理部長が緊急放送を入れ、教室の状況と生徒の把握を教員にお願いした。そのうち、まだ揺れは続いていたが、校舎が古いので持たないのではないかという判断から、校舎外への避難が賢明として緊急避難を開始した。避難の判断は、修学旅行に同行して校長は不在だったので、教頭と企画管理部長、事務長の3人の判断でした。事務室にある緊急放送のマイクで指示した。当時非常用のブザーが鳴りっぱなしの状態であったので、それを止めて指示した。茨城は地震の揺れが強く長かった。生徒たちは、机の下で揺れを長く感じたことと思う。1号館と2号館の連結部分の校舎（連絡棟）が崩れだしたところもあったので、校庭退避を決断した。連絡棟の下は危ないので、咄嗟に迂回して裏から校庭に出るよう指示した。緊急放送の電源は、一般の電源から独立して少しは持つようになっていたので、使うことができた。

生徒は2カ所の出入り口から校庭に集合した。10分程度で全員の避難が完了した。1年生の生徒たちだけだったので、掌握がしやすく避難もスムーズであったことは幸いした。

隣に老人介護施設があるが、なぜかそのお年寄りも本校に集まってきた。本校の生徒がいろいろお世話したようで、その後施設長さんが何度もお礼にみえた。これも日頃の教育のたまものであると思う。

(2) 修学旅行中の対応

修学旅行中の校長のところには3時頃連絡があった。比叡山延暦寺に到着したところだった。何度も連絡したが、通じず、伝言で、全員避難完了したが、余震がひどく動けないということだった。校長は、自分が不在なので、教頭と事務長と常務理事で判断するようにまかせた。

比叡山において、情報は留守電の伝言とヤフーのサイトだけだった。あらゆることを想定しなくてはならなかった。その日によほど校長だけ帰ろうかとも思ったが、新幹線は動いてなかった。子どもたちはちょうどバスを降りて比叡山に向かうところだった。人間でき

ていないと思うのは、頭が真っ白な状態で生徒たちについていった。根本中堂に入る前に記念写真を撮ることになっていて、生徒や教員は何も知らずに「校長先生、校長先生」と呼ばれた。撮りながら、2組、3組くらいからようやく正気に戻ってきて、こんなところで写真を撮っている場合ではないぞと思った。雪が突然降ってきてつもるくらいだった。あとで記念写真を見ると、表情が引きつっていてひどい顔で写っていた。先にバスに戻って想定できることを考えた。学校は何回かけても通じない。たとえ通話ができても途中で切れてしまう。連絡が取れないことは確かに不安になると思った。自宅も次の日の夕方まで連絡が取れなかった。

テレビを見ても、茨城のことは出てこない。ただ伝言で震度6とは聞いたので、私の学校の校舎はだめだと思った。私の学校が一番ひどかったが、水戸市内の他の学校も被害がひどく、建て替える学校が多い。すぐ近くの学校も3つの建物を1つにして建て替えるようだし、水城さんも建て替えるし、県立高校も建て替えるところがあるし、水戸は結構被害がひどかったのだと思う。市役所もだめだった。

2年生はすでに見学に散ってしまっていたので、宿泊先の天津プリンスホテルで、チェックインの後集会を開いて、校長からまとめて情報を出した。そのままでは各部屋のテレビで見て不安や動揺が広がるのではないかということへの配慮からである。普段は携帯電話の所持を認めているが、たまたま修学旅行中は必要ないということで持たせていなかった。このことは逆によかったかなと思う。情報が一本化していないと、いろいろなところからの情報で生徒は混乱する。私の話で「大きな地震があったこと」「一年生は全員無事なこと」「家族への連絡はとってよい。その際はホテルの各部屋の電話を使いなさい。連絡が取れなくても心配する必要はない。必ず無事だから（これははったりであったが動揺しないよう配慮して言ったのである）」ということ話を話した。学校現場では携帯がつながらず混乱したようだったが、こちらでは結果的には固定電話でだいぶ連絡が取れた。なお、予定では翌日に帰ることになっていたが、もう一日様子を見ようということで、急遽次の日の宿泊先を確保した。結局翌日帰ることができたが、先を読むことが大事と思い、手を打ったのである。

(3) 1年生の帰宅についての対応

まず、①保護者と連絡がとれて、保護者が迎えに来る生徒、②保護者の了解のもと、歩いて帰宅が可能な生徒、③遠方でも保護者と連絡が取れて、安全が確保されて帰宅可能な生徒は、保護者の了解を得て帰す。以上で、約7割の生徒が帰宅できた。

つぎに、保護者と連絡が取れない生徒、単独では帰ることができない生徒は保護者の了解を得て教職員が車で送ることにした。この場合は実際は車の渋滞が激しくて、戻ってくることもあった。

最終的に20名の生徒が、保護者と連絡がつかない、帰れないということになった。19名は緊急避難先となっている学校の近くの新荘市民センターに、1名が常務理事の自宅に泊まることになった。近隣の水戸商業高と連絡をとりあって、新荘市民センターが緊急避難先で、学生の受け入れもOKとわかった。3名の教職員が引率した。

その日最後に保護者が迎えに来たのは、23時30分だった。教員は、その後も、保護者

との連絡や新莊市民センターに出向いていたりして残っていた。24 時過ぎにようやくその日のめどが立ち、3 名の教員が新莊市民センターに泊まり、その他は、マイカー通勤の教員の車に分乗して、帰った。

学校自体に泊まることはやめた。校舎はもちろん、合宿所も悲惨な状況であった。合宿所にあった布団などをすべて持ち出して、市民センターに運んだ。その前に、先ほど老人介護施設のお年寄りたちが、負ぶって来たり、車いすを生徒が押してきたり、中にはベッドごと避難してきた。当日寒かったので、そのお年寄りたちに布団を提供した。残りのあまった布団を市民センターに運んだ。市民センターにも毛布などがあり、しのぐことができた。老人施設の方々は、建物が新しく、しっかりしていると確認が取れたので、皆でまた戻した。そういうお手伝いを生徒たちがしてくれた。最初教員だけでやっていたが、生徒たちが自発的に手伝いを申し出てくれた。学校の塀もずれていて危ないので、正門まで大回りをして移動しなくてはならなかった。生徒を危ない目に遭わせるわけにはいかないので、正門を入れてからとか、ガードレールの内側だけとか限定しながら手伝ってもらった。

生徒たちは、教室に荷物を残して避難してきたが、危ないのでその日は取りに行かせることはしなかった。上履きのままで、コートも着ていず、寒いままにいた。

(4) 生徒の帰宅完了

前日帰宅できず宿泊していた1年生は、全員11時半頃までに自宅に帰すことができた。

2年生は、朝8時に状況を見て今日帰ることを決めた。帰る場所は学校ではなく、水戸駅の南口、駅南にし、到着時間はおって連絡するというので、保護者への連絡を開始し、迎えをお願いした。当日新幹線は通常通り運行していたので、15時30分には東京駅についた。その間JTBはよくやってくれたと思うが、観光バス4台を東京駅に手配してくれた。一般道を使って水戸に移動した。23時30分頃水戸駅南口に到着、帰宅不能生徒12名と教員1名はJTB水戸支店に宿泊させてもらった。たまたま水戸支店長が会議で東京に来ていて帰れなくなり、私たちのバスに同乗してきた。

私は生徒が動揺することを心配していたが、生徒はテレビの映像を見ても他人事（ひとごと）だった。映画のシーンを見ているようでぴんと来ない感じだった。夜の食欲も旺盛だった。私は映像を見て、教員から続々連絡が入って、これは大ごとだと思った。新幹線の食事もこれが最後の（まともな）食事かと思っていくらいだった。

翌々日10時30分の時点で、迎えに来られない帰宅困難な生徒は、教員の車で送っていくなどして、2年生全員を無事に帰すことができた。

それから私は12時頃学校に戻り、被害状況を確認して、被害の大きさに愕然とした。

2. 3月14日以降

(1) 素早い仮校舎建設決定

14日以降は決めることばかりだった。14日仮設校舎建設を決定。被害の大きかった連絡棟については16日に解体撤去を決めた。決断が早かったのは、建設資材が東北に流れるのは当然と思い、流れる前に押さえることがポイントだと思ったからである。業者との

信頼関係があったおかげで、業者はだいぶ「東北に資材を回せ」という圧力を受けたが、優先的に資材を回してくれた。解体についても、近くで解体工事をしていたので、そちらをストップしてこちらに来てくれた。1, 2号館についてはきちんと検査を受けてからということにしたが、それがいつになるかは分からないので、とにかく仮設校舎は急いでつくることにした。実際、笠間市も庁舎が壊れて仮設庁舎を建てることにしたが、決めるのが1週間遅れたら、完成は7月下旬になってしまったということだった。この早い決断は正しかったと思う。業者からも仮設は全国から東北に集中する、当時は激震災害に茨城が入るか決まっていなかった状況で、発注するには即決が必要と業者から教えてもらい、理事長にお願いに上がった。事務長はその業者とはこの仮設校舎が建つ4月末まで土日関係なく毎日のように顔を合わせていて、業者間の刻々の情報を教えてもらっていた。日頃は修理などをお願いするだけだったが、震災当日に来てくれ手を打ってくれた。その会社に今度は解体もお願いするのだが、やはりもうけだけではない、会社の大小ではない、日頃の関係を大事にしていることが、こういう事態になったとき生きてくると思った。ただ後から建築の見積もりを見たら、その額の大きさに腰が抜けたが…。

連絡棟は、一番下が空間で通路になっていて、2階に理科室、3階に多目的室という教室があった。エクspansionsは完全に脱落していて、崩れる危険があった。中から見ると空が見えてしまう。1階の支柱部分のコンクリートが壊れ、中の鉄筋がむき出しとなり、余震のたびに傾斜してきていた。がたんがたんとう当たる音もしていた。これはまずいと思い、水戸市の建物の被害状況の調査の前ではあったが、解体を即決した。危険ということもあったが、先延ばしすると解体工事が遅れてしまうという判断もあった。

比較的被害の少ない3階建ての4号館に緊急本部を立ち上げた。それからコンテナ2棟を設置することを決めた。一つは事務室関係、一つは職員室関係にあてた。

成績処理はまだだったが、システムがちゃんと稼働するかみてからにしようということになった。

(2) 行事関係

行事関係では、震災当日の11日に19日まで休校としていた。14日の時点で終業式は中止、そのまま春休みに入ることを決めた。教職員については、週に何日かミーティング日を決め、その日は全員出校するが、教員も地域によっては被害が大きかったので、自分の生活再建を優先するということにした。そういう事態なので、成績判定会議については部長会議に一任にしてほしいと教員には伝えた。終業式が無いことになったので、成績は郵送することになったなどの電話連絡をしてもらった。新入生招集日は3月30日だったが、校内ではなく別会場を手配した。入学式も別会場を手配した。

(3) システムと電話の復旧

システムと電話回線の復旧については、担当の業者の日立もNTTも来られる状況ではなかった。それで、日立の社員がこちらに通勤で帰ってくるときに長いLANケーブルを持ってきてもらい、月曜朝に担当教員と事務長がLANケーブルをハブボックスから手をつないで、途中校舎の壁にガムテープで貼りながら、無線LANがつながるコンテナまで

もってきた。電話線は、解体予定の校舎に大元が通っていた。危険を顧みず、揺れている連絡棟校舎に業者と事務長が入って、コンテナと本部の4号館にまでもってきた。本当はNTTしかやってはいけない工事だが、いつ来てくれるか分からない非常時なので、自力でやってしまった。サーバーは光回線の都合で裏にあって、電話回線とは別系統になっていた。屋根が落ちたが、アンカーに固定していて生きていた。ただサーバーラックは曲がっていた。

建築業者も電気業者もありがたいことにその日のうちに来てくれて、助かった。水道は屋上にタンクをおいて校舎内を流していたが、水道管が破裂して水が噴き出していた。空調については、冷房は電気を使っていたが、暖房は灯油を使っていた。その灯油管も切れて、灯油が噴き出していた。そのままでは電源を復活したとき火事になる恐れもあった。電気屋さんに確認してもらいながら、少しずつ電源をいれていった。ひどい状況だった。日曜日に校長が来たときにはまだ灯油臭かった。業者の協力がなかったら、復旧はできなかった。前から出入りしている業者で無理を聞いてもらった。仮設の業者は新規で傘下に電気や水道関係の業者がいたが、これまでの業者と一堂に集まってもらい、分担して打ち合わせてもらった。「お金はない、工事は4月中に」という無茶なお願いだったが、協力してくれた。業者の方も学校云々よりも生徒が通えなくなってしまうことを心配してくれた。ありがたかった。

(4) 急ピッチで進められた仮設校舎建設

仮設のプレハブ校舎については、3月22日に工事に着工した。通常2ヵ月から2ヵ月半かかるところを、最終的には4月の28日でできあがった。4月中に再開するという思いがあった。基礎を打つだけで2週間かかる、完成まで3ヵ月かかるのが普通だ。集団で使う施設なので、建築基準法からいっても水戸市の行政指導からいっても基礎から打たないと建築許可が下りない。実際に建てるのを2週間でく組み上げた。工程表では5月になっていたところ、4月に完成してほしいという学校のお願いに応えて前代未聞だといいながら、前倒しでやってくれた。余震がひどかったが、それでも工事をやめずに続けてくれた。22日になってがれきの搬出が始まった。プレハブに通電し、サーバーも復活して、成績処理もできるようになった。解体予定の校舎から備品を移動し、30日の再開にこぎつけた。

3. 学校再開に向けて

(1) 学校再開に向けての準備

学校再開の道筋を示しておくことも必要と考えた。今年度の4月末再開で授業の遅れた分は、土曜日を使ったり、夏休みを縮めることで、取り戻すことも、3月22日のミーティングで決めた。校務分掌は部長までは依頼してあったが、係の先生は未定だった。新年度に突入してしまうので、昨年と同じ校務分掌を継続することをお願いした。学年主任の切り換えもここで指示した。

3月25日になると、次の週から通常の日直制に戻すことにした。仮校舎の完成は4月の下旬を目指すとした。(正直その通り行くかは分からなかったが、そう決めた)

在校生については、進級のこともあるが、私物の搬出計画をこの辺からたてた。このときは常磐線などはまだ不通だった。通いたくても通えない時期だった。4月の11日からJRが動くという情報が入ってきた。よその学校はそのあたりから授業を再開するだろう。そこで4月中の学校再開の見通しを保護者生徒に郵送することにした。

4月1日の会議では、4月30日学校再開でいくことを決めた。

教員たちからは、その間課外学習をしたいという希望が出てきた。、選抜コースの子どもたちについては早稲田予備校が空いているというので、頼んできた。商業科の検定に向けての学習も早くやりたいというので、近くの専門学校が4月中授業をしないということが分かっていたので、頼みにいって、11日から始めた。一般の子については4号館が1クラスだけは入れるので、再開までの2週間は各クラスごとに登校させて、ホームルームプラス校長の講話30分をとり行うことにした。その際私物を引き取らせることにした。

4月の14日の時点で、部長クラスには、校舎の建て替えでいくことを告知した。仮設校舎建設、連絡棟の解体費用、3号館の修繕工事、、塀の解体工事等で、当面の支出は億を超える額である。

(2) 決死の楽器取り出し

連絡棟解体予定の前日、保護者から連絡があった。吹奏楽をやっている娘のフルートを取り出したいということであった。吹奏楽の練習場は連絡棟の3階であった。楽器室はその隣接してあるところにあり、とても危険だった。業者の話では楽器を搬出する余裕はないということだった。楽器は高価なものだったので困ったことになったと思っていた。フルート一つならと、お母さんには僕(校長)が取りに行くからと話して、楽器室にいった。開けたら中はめっちゃめっちゃになっていた。しばし絶望して呆然となっていたが、探してみたら、見つけることができた。下に下りたら教員がほこりだらけの私を見て何をしてきたかという。楽器を出してきたというと、教員が業者に掛け合って、全部出すことになった。結果的に楽器を全部取り出すことができた。

3. 学校再開後

(1) 再開後も続く震災の影響

4月再開しても生徒たちの活動にはさまざまな制限があった。体育館は使えない、運動場に仮設校舎を建ててしまったので、ソフトボールは練習できない、部活は外に行っている。吹奏楽の練習は4号館にした。そこは狭いので、打楽器が入らない。そうすると合奏ができない。県のコンクールは1位で通過し、東関東吹奏楽コンクールB部門でも金賞をとり、35団体中2位となった。東日本大会が横須賀であったが、ここでも金賞で2位だった。打楽器との合奏は外部の小学校の体育館とか、市民センターのホールでやっていた。ただ市民センターのホールは近隣から苦情が来て使えなくなってしまった。そういう困難な状況だったが、だからこそ子どもたちは1回の練習にすごく集中していた。すごいなと思った。

4月26日になると、30日の学校再開に向けて教室の配置や清掃用具など、細かな作業を決めて行った。

他の公立など仮設でやっていた学校を 4, 5 校知っていたので、事前にヒヤリングにいった。すると仮設校舎だと心がすさんでくるという。音も出るし、生徒だけでなく教員もだという。それで私が教員に指示したのは、「規律」ということだった。ここが崩れるとだんだんすさんでくる。もう一つは「清掃」ということである。きちんと清掃しよう、汚れてくると人間すさんで来る。今のところ、すさんでいるようには感じられずに来ることができている。

本校は学校行事に力を入れていた。たとえば土曜には感動講座と呼んで、講演会とか芸術鑑賞とか、教養講座などを実施して、心を育てることをやっていた。これまで行事は土曜に集約して、月曜から金曜は授業をきちんとするというのでやってきていた。それが授業の確保の関係とスペースの関係から、今年度は土曜も全部授業になってしまった。子どもたちは一学期一つも行事がなかった。1年生がディズニーランドに遠足に行ったくらいだ。2学期には何とか行事を入れたかったが、入らない。ようやく明日クラスマッチを近くの体育施設でやることになった。今年初めての全員がそろう行事である。これまで、1年生から3年生まで顔をそろえることがなかった。それを考えると、(震災の影響は)結構きついことだとおもう。子どもたちの講話は学年ごとにはやってきたが、全校がそろうまでに半年かかった。明日はここ最近の活躍、たとえば先ほどの吹奏楽の東日本での表彰も紹介したいと思う。全校生徒にも演奏を聴かせてあげたいが、場所がない。市民文化会館など外部の施設も復旧していない。遠くに行かないと施設がない上に、需要と供給のバランスが崩れているので、場所の予約が全然取れない。そういう年もあるよと自己納得させている。

調理室・情報処理室などの特別教室は3月中に修繕した。福祉実習室という広めの部屋で体育などもやっている。仮設校舎が建って、運動場がすごく狭いので、天気の悪い日とかには部活もやっている。あそこで跳んだりはねたりしているので、床が心配だ。

(2) 復旧工事の査定

最終的に7月に激震災害の申請をした。かなり待たされたが、9月15日に財務省と文科省の方が査定に来た。要求したものはほとんど通った。校舎2棟を一棟にして、それから体育館も含んだ一体型の新校舎への建築に向けて、来年12月完成を目指している。かなりきついと思うが、仮設も何とかやれたので大丈夫だろうと楽観している。今日も本設計の部分で業者と打ち合わせをしたところだ。自主設計を12月初頭にあげて、12月に着工する。いまある校舎は12月までに解体し更地にする予定である。

連絡棟があったから構造上1号棟2号棟に被害があったのではないかとといった質問もされたが、一緒に回ってくれた設計事務所からは連絡棟があったからこの程度の被害ですんだと言ってくれた。当初査察に当たっては、財務省文科省の他は法人関係と立会人としての県といった指定があった。しかし我々では建築上のことなど説明できない。被災度判定区分では、全壊半壊では即立て替えとなるが、私の学校は(中破・大破・半壊の中で)中破とされた。体育館も小破だった。通常は修繕でとなるが、修繕にかかる総費用と新築改築の総費用を比較した資料を出して、結局建て替えた方が安いという判定をいただいた。査定は一日かかったが、思ったよりも緩やかだった。震災にあった被害に対しては国民の

目もあり、緩やかにする方針が国にはあったのかもしれない。

しかし、私の学校は、これまで負債がなくやってきたが、そのかわり蓄えもない。このたびの震災で急に億を超える費用がかかっても、お金がない。ただ共済事業団が非常に協力的だった。実は私は、まだ常磐線も動いていない3月20日くらいに、居ても立ってもいられなくて共済事業団に行ってきた。考えても仕方がないし、だんだん暗い気持ちになってしまう。動いてないといやだと思っただけの行動だった。まだガソリンが足りなくて困っている頃だった。つくばエクスプレスは動いている。教員がつくばは水戸よりはまだガソリンが手に入りやすいという情報を仕入れてきたので、片道のガソリン分が出かけた。行ってみたら確かにつくばは待たずにガソリンが入れてもらえた。

事務長が有能で、先を読んで細かくやってくれるし、それから業者にも恵まれた。建築業者も設計業者も本当によくやってくれたので、スムーズに通った。県の振興室もかなり一生懸命相談に乗ってくれた。県もどんな査定になるか見当がつかなかったようでその分心配してくれていた。他の学校は、私から思うと、対応がちょっと遅いと感じる。とくに申請については、これからのところが多いようだ。県からもこれから説明会を開くので、学校名は伏せるが、例として紹介したいといってきた。私はどうせ学校名は分かるからそのままでいいですよと答えた。

国の方針も、当初は原状「復旧」だったが、途中「復興」に方針が変わったようだ。5月の中高連の理事会の時に、文科省の私学部長が来て、たとえば2棟が1棟になるなどは認めるとはっきり言っていた。その時点で私は大丈夫だと思ったが、県の方は絶対には言わなかった。そうはいつでも実際の査定の場面にならないと信じられないところはあった。

いち早く先を見て動くことが大事だった。今回様子を見るなどといってはられない。先行きよくなることはあり得ないと思って行動した。資材が確保できることが分かった時点で即決で決断した。当時選択肢としては2つあった。仮設校舎と貸しビルである。貸しビルの方が安いに決まっている。しかし、近隣の短大がそれで動いているとの情報があることもあったが、何よりも敷地を離れる、しかも3学年同じところにはおそらくいけないだろうというのがあり、つぎの年の生徒募集を考えたとき、それはかなりダメージになるだろうと思った。敷地にはこだわった。

5. 震災という非常時での

(1) 情報の収集と発信

非常時でも通じる緊急電話というようなものはなかった。一般の伝言板はあった。結局避難先の新荘市民センターにある有線の固定電話を利用して各個人宅と連絡をとった。携帯はつながらない。しかも電池切れが多くて、2つあった手動の発電機をみんなで交代で回して少しずつ充電して個人の連絡を取り続けた。携帯電話は登録制で。校内では職員室に貴重品と共に預かっていた。その携帯を配って使用した。当日電源が落ちていた状況の中で、外部の情報は、車のテレビやラジオを流しっぱなしにして得た。あと、この地域は文教地区なので、隣の水戸商業さんと連絡を取り合ったりした。最初水戸商業の体育館に避難させてくれないかと連絡したら、体育館は「やられてだめです」ということだった。

そこは未だに使えていない。それから新莊センターが受け入れられるということが分かった。たまたま水戸商業の生徒指導の先生と私の教科が一緒だったので、前から知り合いだった。電話は通じないので、こちらから歩いて向いて相談したり、あちらからこちらにも来てくれた。普段からの顔つなりの信頼関係のおかげで連絡を取り合うことができた。

こちらから外部に情報を発信するという点では立ち後れたかもしれない。メールでの問い合わせが多かったが、使える状態ではなかった。電話も予備電源で本機だけは使えたが、子機は全部だめだった。その場にいれば電話をとれたが、いないとつながらない状態だった。女子高は問い合わせでもかからないという状況が周りにはあったようだ。つながらないというので、県の総務課総務部の私学振興室の室長補佐の方も見に来てくれた。緊急電話で状況を知らせろというのがあったらしいが、私の学校はそれどころの状況ではなかった。向こうは水戸女子高は全滅したのではないかと心配してくれた。それから事務長がジャンパーにジーパンの作業の姿で毎日振興室に顔を出して状況を伝えた。その間にも2度ほどサーバーがダウンした。電源や建物の関係、校内LANが情報を処理しきれなかったなどが原因だった。サーバーは第一電源をとめて、火事を心配しながら一個一個点検しながら普及させていった。ホームページはレンタルサーバーでやっていたので、そこにつながりさえすれば流すことができた。かなりたってから、入学式の変更とか終業式のなどの予定変更はホームページで流すことができた。3号館は優先的に電源を復旧し、コンテナも2棟できてそこに電源を回したので、LANケーブルはつなげられた。だめになった校舎からコピー機やファックスを全部運び出した。

(2) 試された日頃の組織力

震災時、戻ってからは校長が、それぞれの部署で案件を出したものを決めていった。決めるのが仕事みたいだった。当日の対応もそうだったが、普段から培っている学校の組織力が試される機会だった。私が不在の時も実に適切に対応してくれたと感謝している。

安否確認も、生徒がすぐに動いて、学級委員が点呼確認して担任に報告し、担任は学年主任にあげ、学年主任は管理職に伝えるなどスムーズにいった。私の学校はそういうのは得意だった。そういうことを考えると、宿泊研修など日頃の訓練がとても大事だと思った。団体行動訓練とか、いろいろなところに行った都度点呼となる。子どもたちは自然とそれをやるよう習慣づいていた。担任から学年主任にあげるなどシステム化していた。

緊急事態だけど、日頃の行動が自然にできた。当日学校には生徒136名、教員が40名弱がいた。1年生だけだったのも生徒掌握という点では幸いした。

6. 震災の教訓と課題

教訓は、普段の教育活動が、震災の時に、スムーズな避難とかにつながる。これは生徒も、教員もそうだ。普段の教育活動のあり方がこういうときに試されるということが、よく分かった。

課題は、普段から災害に備えることをして行かなくてはならないことだと思う。茨城ではつくばの茗溪学園など一部の学校は備蓄していたようだが、ほとんどの学校ではやっていなかった。私の学校も想定していなかった。想定していなかったというといけないの

だが…。

新学期のスタートが遅れたとか、今度のことが要因となって転校する生徒は一人もいなかったし、生徒のメンタルの面はそんなに心配しなくても大丈夫なようだ。

課題は、教育活動というより、法人（経営）の問題だと思う。「生徒募集」だ。今年の生徒募集は普段以上にかなり精一杯やっているつもりだ。説明会などにも校長の私になるだけ出向いている。かなり力を入れてきたつもりだ。本当は今週の群馬の全国教育研究集会にも中学校主催の説明会が入っているので出たかった。派手なことはしていないが、校内を回って生徒に声かけするとか、日頃の教育活動が大事だと思っている。進学実績、部活の活躍などアピールするものはあまりない。にもかかわらず、私の学校は今年で7年連続で生徒数が増え続けている。調べたが、全国の私立女子高では、（7年連続で生徒数を伸ばしている学校は）他にない。これが今度の震災でストップしてしまうのはまことにいやだ。しかし中学生などが学校に来て、あの被害を受けた校舎を見てしまうと、どうかなと心配している。今のところ、イベント関係は順調に来ている。私の学校は面倒見がいいと言われている。手間をかけこだわって日頃の教育活動をやっている。そういうのがじわりじわりと口コミで浸透していつているのだと思う。今年乗り切って8年連続となれば、そのつぎの年は校舎が建つ。今年の1年生には来年12月には校舎が建って、必ず入れるからと言っているが、どうなるかだ。これまで校舎はマイナスポイントで「建物で判断する生徒は来なくていい」などと言っていた。イベントに来た生徒の入学率は高い。説明会や毎週土曜にやっているオープンスクールでは私が必ず対応する。イベント参加の95%の生徒が受験している、オープンスクールに参加して受験した子の78%が入学している。私が話して学校を案内し、ウチの生徒とも話しをして「いいと思ったら受けてみたら」と話している。生徒たちは、自分の出身中学校の後輩だとわかると近づいてきて「ウチに入りなよ」と言ってくれる。ありがたいことだ。こちらがそうさせているわけでないので、声をかけた生徒本人もそこそこ学校に満足しているのだと思う。

私の学校は偏差値だけで見ると低い方にランクされているが、入学生の85%が単願で入ってくる。県立との併願でない。そこが強みだ。その子たちは何度もオープンスクールで来ていて、納得して入っている。

6. おわりに…調査委員の感想

校内を見学しているとき、調理で手を切った子が手当をするために出てきたが、客である私たち調査委員のために道を譲ってくれた。「非常に感心なお嬢さんだ」と褒めると、校長先生は「あの子の母親は別の私学の学校の事務員だ」という。同じ私学なので学校の様子がよく分かっていて「女の子だったら水戸女に」という意向で送ってくれた。たまには怒られるごくごく普通の子だ。最近推薦が決まったが、成績がずばぬけていいわけではないが、優しい子だ……等々、その生徒の情報が次から次と校長先生の口から出て来た。この生徒に限らず、校舎内を案内するときに、行き会う生徒に声かけし、私たちには「あの子は吹奏楽部で、パートは何で」と実に詳しい。伺うと毎朝校門に立って生徒に声かけしているという。

校長先生が、「震災という非常時に、その学校の日常の組織力が試される。」「業者との

日頃の信頼関係が大切である」そして「校長としては先を見ながら、行動しなくてはならない」と言っていたことと並んで印象的だった。



水戸女子高等学校 旧校舎